

様式第2号（第9条関係）

会議録

会議の名称	令和5年度第1回ふじみ野市地域自立支援協議会			
開催日時	令和5年6月2日（金） 開会時刻 午後2時00分 閉会時刻 午後4時40分			
開催場所	大井総合支所1階 災害対策室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	中島 修	委員	野原 眞二
	副会長	柳川 道子	委員	太田 肇
	委員	小菅 友美	委員	茅田 和枝
	委員	河田 智美		
	委員	福應 渉		
	委員	相澤 秀一		
会議の議題	(1) 日中サービス支援型共同生活援助の利用状況について (2) 障がい者基本計画の進捗状況報告について (3) 第2期障がい者プラン（後期）策定におけるアンケート調査結果報告書について (4) 部会報告 (5) その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
会議の内容	別紙のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	福祉部障がい福祉課			
議事の確定	確定年月日	令和5年6月16日		
	記名押印 又は署名	役職名 会長  中島 修 ㊟  ※自署の場合は、押印不要です。		

## 会議の内容

### (1) 日中サービス支援型共同生活援助の利用状況について

〈概要説明〉（ソーシャルインクルー株式会社）

〈質問事項等〉

○昨年度の地域自立支援協議会において、同性介助についての意見があった。その点については、順調に進んでいるという事でよいか。

⇒職員の募集については、男女変わりなく募集している。（事業所）

○自治組織の地域活動への参加が難しいとのことだが、どの様に改善する考えか。

⇒5月1日に開設した市内2棟目の事業所においては、昨年の助言を鑑み、開設前に自治会長に相談し自治会に加入した。

コロナの影響が少なくなり、今後、自治会の活動も徐々に再開する方向であると伺っている。自治会長とコンタクトをとり、積極的に地域の活動に参加して行きたい。（事業所）

○ボランティアの受入れ実績がないようだが、他の事業所の状況はどうか。

⇒会社としてボランティアの受入れ体制が整っていないのが現状である。

他事業所においては、話し相手程度のボランティアの受入れが多少あると聞いている。（事業所）

○緊急時等の短期入所の受入れを積極的に行っているとのことだが、実際に申込をしても入所待ちになることがあると聞いている。

⇒月に2～3人を短期入所で受け入れているが、週末は人気があり希望に添えないことが多い。地域全体で短期入所の受け皿が少ないのではないかと感じている。

（事業所）

〈評価・要望〉

○災害時等においては地域とのつながりが重要になってくる。職員、利用者のためにも積極的に地域参加を促進してほしい。

○利用者のために日中活動を充実させる必要がある。特に精神障害者の場合は、生活リズムを整えることが大切である。

⇒日中ホームにいる利用者からも退屈であるとの声を聴く。日中、他のサービス事業所を利用している方を見て、意欲をもつ利用者もいるが、まず生活リズムを整えないと利用が難しいのが現状である。日中の活動を充実させ生活リズムを整えていけるよう図っていく。（事業所）

○ボランティア・実習生の受入れについては、利用者の社会とのつながりでもある。その点からも積極的に受け入れを進めてほしい。

○利用者は、退去になると行き場がない。障害福祉に携わる者としては、利用者ごとの特性を理解しないといけない。また、支援の仕方やその人の特徴などを利用する事業所を共有し丁寧なアプローチをする必要がある。退去になる場合でも次の生活の場が確保されないといけない。

○法人として研修を実施できないところもある。特にグループホームの職員は資格要件が少ないため、知識が不足する場合がある。

市として基礎研修を実施するなど検討する必要があるかもしれない。

○相談支援事業所と連携がとれると良かったかもしれない。

セルフプランの割合はどうなっているか。

⇒24%くらいであり、徐々に増えている印象がある。

令和3年度末に相談支援事業所が1か所休止した影響が多少あると思われる。市全体として相談支援事業所が不足気味である。(事務局)

○セルフプランの人は、法人内の他サービス利用があるため相談支援員がつかないと危険がある。

チェック機能が働かないため、必要でないサービスが提供される可能性がある。

○人材育成は地域生活支援拠点の機能の1つである。

適切な利用者支援のため、人材育成、研修の実施を検討してほしい。

## (2) 障がい者基本計画の進捗状況報告について

〈概要説明〉(事務局)

〈質問事項等〉

○全体として順調に進んでいるが、あまり進んでいない項目もあった。

避難体制に関する項目がC評価の理由を教えてください。

⇒新型コロナウイルス感染症の影響により、実施すべきものが実施できなかったためである。(事務局)

○特別支援学級での支援が不十分に思う。ふじみ野市は積極的に取り組んでいると思うが、まだまだ改善の余地がある。学校教育での工夫が必要である。

○担当課としての評価は分かったが、市としての評価はどうか。担当課が複数ある場合評価が難しいため、障がい福祉課で市としての総合的な評価をしてほしい。

また、客観的に評価できるよう数値目標を設定してほしい。  
⇒数値目標を設定していないのは問題があるように思う。今回策定するものには、数値目標を設定するようにしたい。今回の評価に関しては会長預かりとしたい。  
(会長)

(3) 第2期障がい者プラン（後期）策定におけるアンケート調査結果報告書について  
〈概要説明〉（事務局・コンサルタント）

〈質問事項等〉

○一人暮らしの希望が増えているのは全国的な傾向である。平日日中の過ごし方、社会とのつながりがあるかが重要になる。

3割が自宅で過ごしている。日中支援、余暇活動など、非公的サービスの見える化が重要ではないか。サービスを必要としない人も含めて交流の場を持つことは非常に重要である。

○ボランティア団体・青年学級（コスモスクラブ）などを計画内で紹介してはどうか。

○手話についてテレビドラマの影響もあり理解が深まってきたと思うが、ふじみ野市手話言語条例の認知度が低いのは残念である。

ふじみ野市は先進的に条例を制定したので、もっと周知した方が良い。

手話は動きが美しいので、手話ダンスの考案などで周知を図ってはどうか。

⇒2年後にデフリンピックの開催を控えており、市としても何かしらの施策を検討していきたい。（事務局）

(4) 部会報告

〈概要説明〉（各部部长）

○相談部会：5月22日に部会を開催し、従来の事業所連絡会とは別に事業所向けの研修を実施したいという話が出た。  
災害時の個別避難計画が必要になる方の対応を検討していく。

○就労支援部会：4月27日に部会を開催し、情報共有を図った。  
市内の就労系事業所のネットワーク会議を4回開催した。令和5年度も同程度を予定している。  
特別支援学校との情報交換の場を設けたい。  
市報12月号に就労系事業所の紹介記事を掲載予定

○こども部会：医ケア児の対応について、関係者を集めて検討した。

相談件数の増にどう対応するか検討をしていきたい。

○権利擁護部会：5月19日に部会を開催した。合理的配慮に関する周知動画を文京学院大学の協力のもと作成した。今後、障がい者団体へのDVDの貸し出しなどを通じて啓発を進めていく。  
令和5年度の活動は、障がい窓口マニュアルの見直しを予定している。

○精神部会：5月11日に部会を開催した。令和5年度は、部会とは別に関係者を集めてコアメンバー会議を開催し、個別ケースについて検討するとともに地域での連携を図っていきたい。  
「精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム」の実現に向け、事業所を対象とした勉強会を年3回開催する予定。

(5) その他

障がい者差別に関する相談について、令和4年度は相談事例が無かった旨報告。